

樹木画のイメージから学生のところを探る

古 市 久 子
澤 田 節 子

目 次

はじめに

I 研究の動機

1. 絵から心情を読みとる
2. 樹木画と人のところ
3. 本研究で樹木画を使用した理由
4. 予備調査からみえてきたこと

II 樹木画の選択とイメージから学生のところを探る

1. 仮説と目的
2. 絵から心情をみる方法
3. 絵の選択から得られた結果
4. 現在の心情と将来像についての検討

III まとめ

おわりに

はじめに

現在の大学では、学習以前の状況で悩み、戸惑っているものも見受けられる。大学の中では、自主的・主体的に学ぶことが前提になっていることでも、彼らの気持ちには相容れないものもあるのかもしれない。最近は導入教育が大学間差をもちながらも、各大学で工夫がなされているところである。本学においても、学生は入学時にどのような学習レディネスがあるのか、学習以前の問題で悩みが大きいのか、大学に入った今何を考えているのか計り知れないところがある。けれども、いかなる状況であれ、学習効

果を挙げるための、基礎的人間力といったところとかかわる部分の資料がなければ、次へのステップを用意しても効果が少ない。

そこで、実際に学生はどのような心情でいるのか、まず、実態を知る必要があると考えた。その際、質問形式の調査では、本当の心情を探るのに彼らの中に気構えを作ってしまうことから、自然体で本当の気持ちを表現できる方法を模索した。

入学後の学生たちは、どのような心の状態であるのかを知ることにより、学習への動機付けを高める手がかりを見つけたいと考えている。そのうえで、4年後の状態も調査するつもりである。この4年間の大学生活で、本大学の教育が有効に働いたかどうかを推測する手がかりにしたいからである。

I 研究の動機

1. 絵から心情を読みとる

絵は感動を与えてくれるだけでなく、人間の心を癒す。さらに、絵にところを動かされるのは、自分のところとリンクしているからだといわれている。本調査では無理なく自分の心を直感的に投映する絵を媒介にするのが良いと考えた。そこで、本調査の手法である描画から心情を見る方法を概観し、心情を推測するツールと

しての客観性を何例かあげて確認しておく。

レボウィッツは、「投映描画法は描き手についての確実な何かを反映するという抗しがたい魅力をしばしば発揮する」という [1]、彼の動的HTP描画法を使った例をみてみたい。B4版の白紙に家・木・動いている人を描いてもらい、分析する方法である。三沢直子はこの描画テストを使用して『描画テストに表れた子どもの心の危機』で788名の絵から、子どもの背景にある子育て環境のさまざまな問題を浮かびあがらせた。また、デイ・レオも『子どもの絵を読む』で121枚の絵から個性化と社会化の狭間で揺れる子どもたちの姿を解説している。

アメリカの精神科医で、死にゆく人たちの心理的ケアと死生学のパイオニアであり、第一人者であるエリザベス・キューブラー-ロスは、グレッグ・M・ファースの“The Secret World of Drawings”の前書きにおいて、「夢の言葉と同じように絵の言葉は無意識のことばである。それは意識の声が弱まれば語るのだ」と無意識の表現としての絵を語る本にエールを送っている [2]。グレッグは上記の本で、描き手の心身両面に関して見事に指標になることを証明する事例を多く報告している。

さらに、「色彩には絵画の線や形やスペースよりも、はるかに子どもの感情生活の激しさの性質や程度を理解する手がかりをあたえる」と、アシュラーとハトウィックは、色が子どもたちによって象徴的に使用されていることを見出した [3]。

このように絵を使った精神分析法は補助手段とはいえ、よく使用されている診断法である。中井久夫の考案による色彩分割法は、絵を描きなれていないものにも容易な方法である。枠付けされた画面に、サインペンで適当に線を引いて、それにクレヨンで色をぬるのであるが、色もまた、心を投映すると考えられている [4]。

2. 樹木画と人のこころ

樹木画法の解釈は、コッホ, K. に始まり、ボランデルがより詳細に精緻に発展させた。E. H. エリクソンは「樹木は倒立した人間」という。この言葉に着目して中園は、樹木画の実施法と解釈論に拘り、樹木心理学の立場から新しい解釈論に取り組んでいる [5]。彼は「樹木画法の解釈論—樹木心理学の立場から—」という論文の中で、エリクソンの身体部位論を検討し、人間と樹木の関係性に言及している。それによれば、①エリクソンの身体部位論は有効であること、②樹木の根・幹・花・果実は、人間の頭部・胴体・生殖器に相当し、発達が逆さまであること、③人間と樹木においてその共通の本質が直立した姿に反映されることを確認している。

樹木画の診断としてバウムテストが有名である。「コッホ, K. が、多くの樹木画から共通した特徴や普遍的な意味を見出し、投映法の一つとして体系化したものである。①木は我々の生涯と同じプロセスの生涯をたどること、②形態的にも左右ほぼ対象であること、③内から外へ向かおうとする動きをもつなど、人との類似性が大きく、パーソナリティの全体性が反映されやすい」と考えた [6]。A4版の画用紙と濃い鉛筆・消しゴムを使用して、現在は「木を一本かいてください」という教示がされ、その結果について、形態分析、動態分析、空間分析がなされる。

また、発達的にも特徴があるという、マズロー理論に基づく木の描画については5つの発達レベルを設定している。「レベル1：生命力、生命エネルギーの生命需要への帰属。接近型の木は、突き刺すような感じで、親しみが感じられない、回避型の木は生命力がなく、枯れそうである。幹は狭く、木は曲がっていたり、枝は垂れ下がっていたりする。レベル2：身体への

帰属。接近型の木には官能的な部分がある。回避型の木は省略されたり、陰がつけられたりする。レベル3：社会への帰属。接近型の木は強く、大きく、派手な木。枝は支配的に外へ伸びている。木のバランスは悪い。回避型の木は活気がない。レベル4：自己と非自己への帰属。養育的で、何かを庇護するような木陰をつくる。レベル5：自己と拡大的非自己への帰属。木はかけたところがなく、全体的で、上へも下へも伸びている。活力、喜びが見られ、多色である。調和がとれ、鳥や太陽や山が描かれる場合がある」[7]。このように木の描画は発達のレベルでも診断に使用されている。

3. 本研究で樹木画を使用した理由

学生の心情を見るということからだけであれば、バウムテストで良いかもしれない。しかし、それには何点かの課題があり、次の5つが即製の絵を本研究に使用した理由である。

- ①個人のデータを収集し、結果的には集団としての方向性を見たいために、個人に埋没するような解釈ではなく、新しい尺度を必要としたこと。
- ②学生の絵画能力との関係で、描画をするという能力のバイアスを避けたかったこと。
- ③個人の心的解釈ではなく、多人数の集団としての状況を把握するために回答の共通化を図りたかったこと。
- ④調査における学生の負担感をなくし、自然な回答姿勢から真の心情を見たいこと。
- ⑤樹木画の読み取りが、素人でも可能であるものであること。

4. 予備調査からみえてきたこと

調査に先立ち、2回の予備調査を行った。
第1回目、絵と心のつながりは表現できるか。
目的：絵を見て自分の心を投射して表現で

きるかをみる。

対象：A短期大学生26名。

日時：2006年12月

方法：自記式の記述調査。5種類の絵（帆船・道・女性と子・紅葉）の中から1枚絵を選び、その絵の中に、自分を描写した絵の説明を記述してもらった。

倫理的配慮：対象学生に目的や調査への協力は自由意志であることを説明し、同意を得た。

上記の調査結果からみると、自分の現在の心情を絵に表現することが十分出来ることが分かった。さらに、非常に興味をもって自分を分析しようとする態度が多く見られた。

第2回目：樹木画を使用して心情を表現できるか。

目的：現在の心境としてどのような樹木画を選択し、その木をどのように育てたいかを知る。

対象：A大学N学部2年生33名。

日時：2008年5月

方法：自記式の記述調査。学生にtupera tupera氏の木の絵[8]を8種類提示し、その絵の中から自分の好きな絵を選び、「その絵から受けるイメージ」と「どんな木に育てたいか」を自由記述してもらった。

倫理的配慮：対象学生に目的や調査への協力は自由意志であることを説明し、同意を得た。

上記の調査結果から貴重な内容が見出されたが、類似しているものをまとめて、本調査に使用する項目を抽出した。但し選択されなかった1枚の絵を除くことにした。

Ⅱ 樹木画の選択とイメージから学生の ところを探る

1. 仮説と目的

- ①樹木画が心情を適切に表すことが出来るかどうか。人間と樹木の関係については、日本でも多くの先達が研究を重ねているが、これらは本人が自由に描く絵の診断である。筆者らが提示した即製の絵についても、また、同じように診断が可能であろう。それは、対象者の描画の巧拙に関係ないので、自分の心情を容易に投射することができるからである。
- ②将来の進路において選択肢の多い学部は、進路がある程度決まっている学部に比べて不安が大きいのではないかと。したがって、選択肢の多いことが現在の若者のやる気をなくしていると言われていることから、混沌としたイメージの木を選ぶのではないかと。さらに、予備調査2において、自由記述で「びっしり」について「いろんな虫がいてごちゃごちゃしていて、今の自分に似ているから選んだ」という記述があった。
- ③入学直後であるので、希望を表す色彩やバランスのとれた木の絵を選択する学生が多いのではないかと。したがって、レボヴィッツの投射描画法の解釈から「桜の木」「緑の木」が多く、反対に、「雨の木」「枯れ木」を選択する学生は少ないのではないかと。
- ④学生の現在の心情は、大学で自分が学ぶ意味を探るための目標を基本にしたいくつかのタイプに分類できるのではないかと。第7回世界青年意識調査報告書〔9〕によれば、学校へ通う意義についていくつかの理由のうち、外国の第1位が「知識や学歴・資格を得る」に比べ、日本の若者は、第1位が「友達との友情を育む」、第2位は「一般的・基礎的知識を身に付ける」となってい

たことから、友達関係と学習を包括した概念を、学ぶ意味という基本線に考えた。

- ⑤学生は、木のイメージとして現在の状況より、将来はもっと上位のイメージに描いているのではないかと。人は、向上心を持ち続けることが生きることの礎になるのではないかと。将来の自分を考えたとき、4年間の学習により、今より伸びるはずであるという信奉から、向上した自分を投射する。

以上から、本研究は、入学時の心の状態を読み解き理解すること、学生生活をどのように過ごしたいと考えているのか、そして自己の将来像についてどのように考え、どのような人物になろうと思っているのか、樹木画をとおして学生の心のありようを探る。

2. 絵から心情をみる方法

対象：A大学1年生：213名、R学部90名、N学部123名（H学科100名・C学科23名）

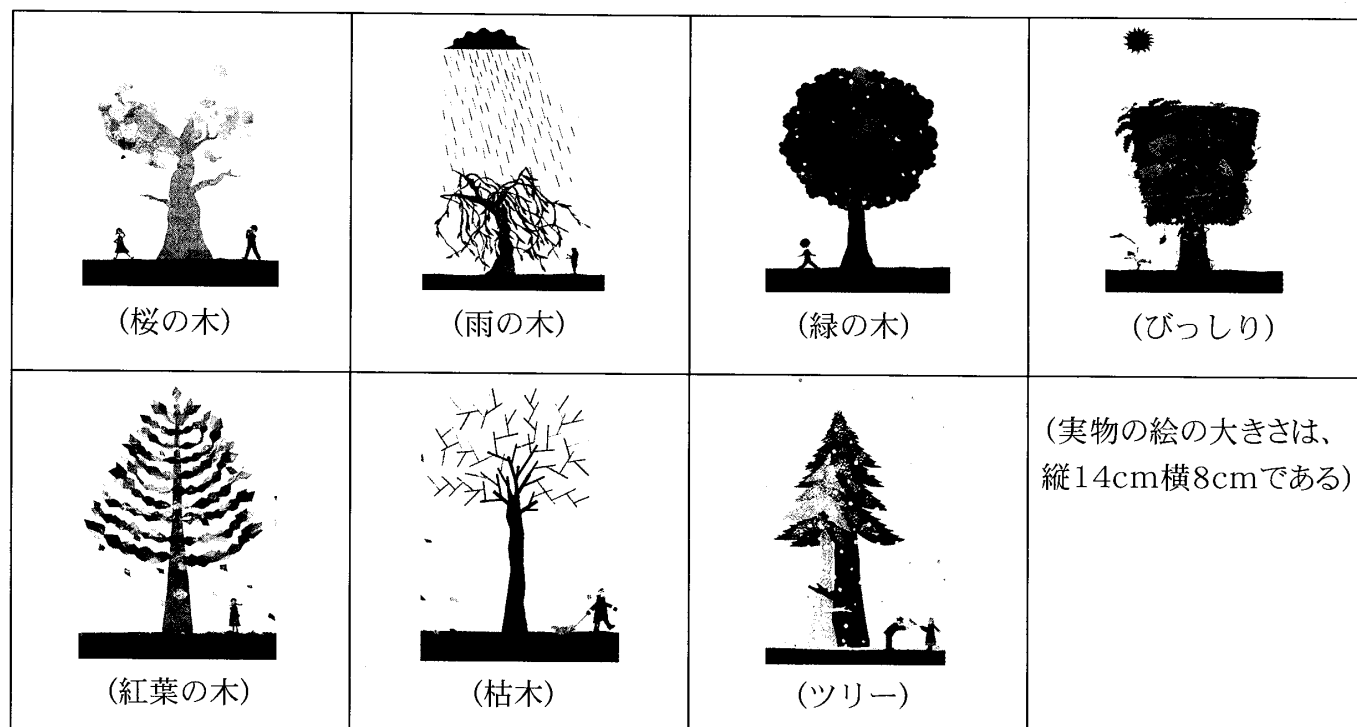
期間：2008年5月～6月

方法：自記式の質問紙調査。筆者らが手続きを説明し回収を行った。予備調査2で使用した同じ木の絵を7つ提示した。今の気持ちに近い木の絵を選び、将来どのような木に育てたいと思うかについて回答してもらった。

分析：統計ソフトSPSSを使用して計数した。1番は点数化、1番の4と2番は因子分析等の統計処理をした。

倫理的配慮：対象学生に目的や調査への協力は自由意志であることと、個人名を明らかにしないことを説明し、同意を得た。

質問紙は、以下のとおりである。



1 番 絵を選んだ理由の質問

問1.色のイメージとしては、どのように思いますか。

1. 好き 2. 普通 3. 嫌い

問2.形のイメージとして、どのように思いますか。

1. 安定 2. 不安定 3. 根がはっている 4. しなやか
5. 弱そう 6. 強そう 7. バランスがよい

問3.木の雰囲気としては、どのように感じますか。

1. 明るい 2. 暗い 3. 薄暗い 4. 楽しい 5. 寂しい
6. 暖かい 7. 冷たい 8. その他 ()

問4.木の季節感として、いつ頃だと思えますか

1. 春の感じ 2. 夏の感じ 3. 秋の感じ 4. 冬の感じ 5. 季節感はない

問5.あなたの心の状態を表していると思うものを2つ以内で選んでください。

1. 自分に似ている 2. 元気が出る 3. 癒される 4. さわやかになる
5. 何か起こりそう 6. 優柔不断である 7. 不安がある 8. 落ち着いている
9. 今後大きくなる 10. 今は耐え忍ぶ 11. 悩みがある 12. その他 ()

2 番 どのような木に育てたいかの質問

問1 将来、どのような木に育てたいと思うか、以下の中から2つ以内で選んでください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 皆がいっぱい集まる木 | 2. 皆の憩いの場となれる木 |
| 3. 大きな木になり皆を守る木 | 4. 風雨雪に打たれても根をはる木 |
| 5. 太陽に照らされて伸び伸び育つ木 | 6. 自分で育つ木 |
| 7. 筋の通った芯の強い木 | 8. 花や実がいっぱいになるような木 |
| 9. 何があっても、耐え、よく生きる木 | 10. 葉が生い茂り、雨宿りできる木 |
| 11. 将来的に余り変らない木 | 12. その他 () |

3. 絵の選択から得られた結果

(1) どの絵を選んだか

全体の回収率は、69.2%であった。R学部は59.9%、N学部は93.9%であり、N学部のH学科は96.1%、C学科は85.2%であった。

学生が選んだ絵の割合を示したものが図1である。全体では、「緑の木」が25.4%と一番高い比率で選択されており、次が「桜の木」24.9%であり、この2つが全体の50.3%で半数を占めていた。学部別の絵の選択は表1に示したとおりである。H学部は全体と同様、R学部は、「桜の木」が1位で、次いで「緑の木」となっており、全体的には、「枯木」、「雨の木」の比率が低くなっていた。

また、H学部は「びっしり」が13.0%と比較

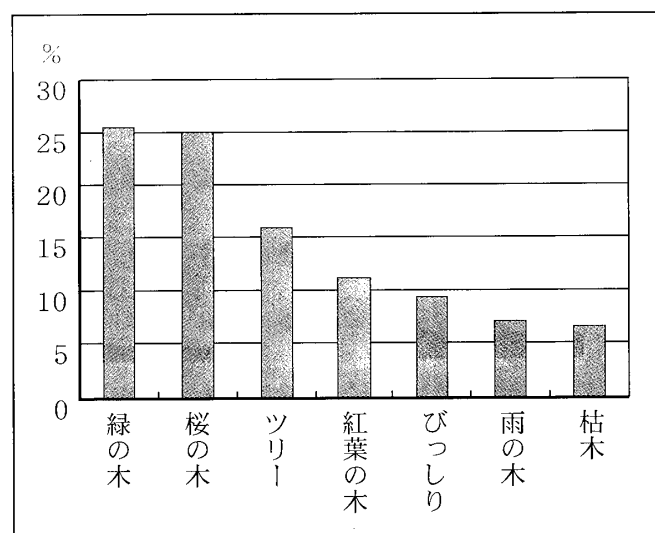


図1 絵の選択 (全体)

的多かったが、R学部は、わずかな数値であった。全体の比率では両学部共によく似ており、 χ^2 検定の結果、有意な差は見られなかった。

表1 学部別にみた絵の選択

(%)

	緑の木	桜の木	ツリー	紅葉の木	びっしり	雨の木	枯木	計
H学部	25.2	22.0	13.8	12.2	13.0	7.3	6.5	100
R学部	25.6	27.8	17.8	10.0	5.6	6.6	6.6	100

表2 学部別にみた色・形のイメージ

(%)

	色のイメージ			木の形		
	好き	普通	嫌い	安定	しなやか	不安定
H学部	64.2	30.1	5.7	59.3	25.2	15.4
R学部	61.1	35.6	3.3	53.3	34.4	12.2
全体	62.9	32.4	4.7	56.8	29.1	14.1

表3 学部別にみた木の雰囲気、季節観の状況

(%)

	木の雰囲気				木の季節感				
	明るい	寂しい	楽しい	暗い	秋	春	夏	冬	なし
H学部	57.7	17.9	16.3	8.1	20.3	26.0	26.0	20.3	7.4
R学部	65.6	21.1	5.5	7.8	29.9	18.9	18.9	22.2	11.1
全体	61.0	19.3	11.7	8.0	23.9	23.0	23.0	21.1	8.9

(2) 色・形のイメージおよび雰囲気・季節感の関係

学部別に絵の色・形のイメージに対する好みを探ねた内容は、表2に示したとおりである。全体では、「好き」が62.9%と高い値であり、「嫌い」と表現していたのが4.7%あった。

次に木の形は、設問7項目からの選択であるが、安定・不安定を基本としてよく似た項目を集め3つに分類した。全体では「安定(強そう)」が56.8%で、「不安定」が14.1%あった。全体の比率は両学部とも似ており、共に有意な差はみられなかった。

学部別の木の雰囲気・季節感を探ねたもので内容は、表3に示したとおりである。木の雰囲気は、設問7項目からの選択であるが、明暗を

軸として心情が似た項目を集め4つに分類した。全体では「明るい」が61.0%と高い値であり、「寂しい」が19.3%あった。学部別では、R学部が「明るい」65.6%、「寂しい」21.1%あり、H学部は、比率的には少ないが「楽しい」16.3%となっていた。共に有意な差はみられなかった。

木の季節感では、「秋」がやや高い比率になっていたが、春夏秋冬が付随した比率であった。学部別では、H学部は「春」と「夏」がやや高く、R学部は「秋」が高く、「季節感なし」も多く選んでいた。共に有意な差はみられなかった。

表4 絵の選択別にみた木の色・形・雰囲気・季節感との関係(人数)

		緑の木	桜の木	ツリー	紅葉の木	びっしり	雨の木	枯木	計	χ^2 検定
色 の イ メ ー ジ	好き	37	37	21	16	9	6	8	134	*
	普通	17	15	12	6	10	5	4	69	
	嫌い	0	0	0	2	2	4	2	10	
木 の 形	安定	38	32	23	6	12	5	5	121	*
	しなやか	14	15	9	16	4	2	2	62	
	不安定	2	5	1	2	5	8	7	30	
木 の 雰 囲 気	明るい	38	50	26	11	2	2	1	130	*
	寂しい	6	2	4	10	4	5	10	41	
	楽しい	6	0	2	2	14	0	1	25	
	暗い	4	0	1	1	1	8	2	17	
木 の 季 節 感	秋	1	19	0	22	3	4	2	51	*
	春	15	30	1	0	2	1	0	49	
	夏	33	2	0	1	11	2	0	49	
	冬	1	0	31	0	1	2	10	45	
	なし	4	1	1	1	4	6	2	19	

* $p < 0.05$

(3) 絵の選択と木の色・形・雰囲気・季節感との関係

絵の選択別の木の色・形・雰囲気・季節感との関係をみたものが表4である。色のイメージは、絵の選択で「緑の木」37人、「桜の木」37人で圧倒的に多く、「嫌い」はゼロであった。しかし、「嫌い」は全体で10人あり、特に「雨の木」で4人が選択していた ($p<0.05$)。

木の形の選択では、「緑の木」38人、「桜の木」32人が「安定」を選択していたが、他の木に比べて「びっしり」が12人と多くなっていた。「不安定」はわずかであるが、全項目選択されていた。その中では、「雨の木」が8人、「枯木」が7人と比較的が多くなっていた ($p<0.05$)。

木の雰囲気の選択では、「緑の木」、「桜の木」、「ツリー」は「明るい」が圧倒的に多くなっていた。その中では、「寂しい」が「紅葉の木」、「枯木」で多く、「楽しい」が「びっしり」で、「暗い」が「雨の木」で比較的多く選択されていた ($p<0.05$)。

木の季節感の選択では、「緑の木」は「夏」、「桜の木」は「春」、「ツリー」は「冬」、「紅葉の木」は「秋」、「びっしり」は「秋」と「季節感なし」、「雨の木」は「秋」、「枯木」は「冬」と全体的に季節感に対応していた ($p<0.05$)。

(4) 絵の選択と心の状態との関係

大学生になって2ヶ月、現在の心の状態を表す表現として、絵の選択別に心の状態との関係を示したものが表5である。心の状態は、11の項目から2つ以内で選択してもらったが、平均80~90%という回答であった。心の状態の全体では、「癒される」が80人(22.2%)で第1位であり、次いで、第2位が「落ち着いている」45人(12.5%)、順に「さわやか」44人(12.2%)、「元気がでる」40人(11.1%)と続いていた。数は少ないが全項目選択されていた。

特に「不安がある」23人(6.4%)、「耐え忍ぶ」14(3.9%)、「悩みがある」11人(3.1%)がそれぞれ選択していた。

絵の選択では「桜の木」が93人(25.8%)と「緑の木」が90人(25.0%)で、少ないのは「雨の木」、「枯木」が10%以下であった。絵の選択と心の状態との関係からみると、大体3つ位のグループになっていた。「桜の木」と「緑の木」は「癒される」「落ち着いている」「さわやか」「元気が出る」が多くなっていた。次いで「ツリー」「紅葉の木」は「癒される」と「落ち着いている」が多く、他に「ツリー」は「何か起る」で、「紅葉の木」は「似ている」「優柔不断」となっていた。そして「びっしり」「雨の木」「枯木」は、数値は少ないが全般的に選択され、項目のうち「似ている」「不安がある」が多くなっていた。また、「びっしり」は「元気が出る」、「枯木」は、「悩みがある」が比較的が多くなっていた。

次いで、表5に示した心の状態を表現する内容は多肢選択であり、重複している変数もあることから主成分分析を行った。主成分についてバリマックス回転後の各因子負荷量を示したものが表6である。第1因子は、「似ている」「悩みがある」「不安がある」で「大学生活不安タイプ」とした。第2因子は、「元気が出る」「大きくなる」「さわやかになる」で「大学に期待するタイプ」とした。第3は「優柔不断」「落ち着いている」で「将来を決めかねるが安定タイプ」とした。第4は、「何か起る」「耐え忍ぶ」「癒される」で「忍耐しつつも待つタイプ」とした。以上のように、学生の心の状態を4つのタイプに集約できた。

(5) 絵の選択と育てたい木との関係

学生はそれぞれ目的をもって大学に入学しており、その学生が将来を見据えてどのよう

表5 絵の選択別にみた心の状態

(複数回答)

	桜の木	緑の木	ツリー	紅葉の木	びっしり	雨の木	枯木	全体 (%)
癒される	29	24	16	7	1	1	2	80 (22.2)
落ち着いている	11	14	10	7	1	0	2	45 (12.5)
さわやか	18	16	4	5	0	1	0	44 (12.2)
元気が出る	14	12	4	3	7	0	0	40 (11.1)
何か起る	7	4	8	1	6	4	2	32 (8.9)
似ている	1	7	2	5	6	5	5	31 (8.6)
不安がある	0	4	2	4	2	7	4	23 (6.4)
優柔不断	6	1	2	5	5	1	2	22 (6.1)
大きくなる	5	4	3	1	3	1	1	18 (5.0)
耐え忍ぶ	1	2	2	1	3	3	2	14 (3.9)
悩みがある	1	2	0	1	1	2	4	11 (3.1)
計	93	90	53	40	35	25	24	360
(%)	(25.8)	(25.0)	(14.7)	(11.1)	(9.7)	(7.0)	(6.7)	(100)

表6 心の状態に関する主成分分析

(バリマックス回転後の因子負荷量)

	大学生活不安 タイプ	大学に期待 するタイプ	将来を決めかね るが安定タイプ	忍耐しつつも 待つタイプ
似ている	0.545	-0.241	-0.110	-0.073
悩みがある	0.507	0.056	-0.078	-0.093
不安がある	0.500	-0.075	0.222	-0.153
元気が出る	-0.203	0.700	0.410	-0.159
大きくなる	-0.125	0.288	0.617	-0.300
さわやかになる	-0.074	0.230	-0.793	-0.112
優柔不断である	0.317	0.082	0.384	-0.552
落ち着いている	-0.326	-0.718	0.320	-0.153
何か起こる	-0.020	0.120	0.094	0.784
耐え忍ぶ	0.266	-0.157	0.099	0.424
癒される	-0.678	-0.228	-0.037	-0.142

な木になりたいか、あるいは成長したいかということで、絵の選択別に育てたい木との関係を示したものが表7である。育てたい木は、11の項目から2つで選択してもらったが、平均80～90%という回答であった。育てたい木の全体では、第1位が「集まる木」で68人（18.1%）、第2位が「憩いの木」64人（17.0%）と多くなっていた。次いで「皆を守る木」46人（12.2%）、「花や実がなる木」40人（10.6%）と続いていた。全項目選択されていたが、特に「耐える木」35人（9.3%）、「伸び伸び育つ木」33人（8.8%）、「変らない木」3人（0.9%）であった。

絵の選択では「桜の木」が、96人（25.5%）と「緑の木」が95人（25.3%）で、少ないのは「びっしり」「枯木」「雨の木」が10%以下であった。育てたい木との関係でみると、「桜の木」と「緑の木」は、「集まる木」「憩いの木」「皆を守る木」が多くなっており、他に「桜の木」

は「花や実がなる木」「伸び伸び育つ木」が多く、「緑の木」は「耐える木」が多くなっていた。「ツリー」「紅葉の木」は「憩いの木」が多く、全体的に選択されていた。そして「びっしり」「雨の木」「枯木」は、数値は少ないが全般的に選択され、特に「びっしり」は「集まる木」「花や実がなる木」が比較的多くなっていた。

次いで、表7に示した心の状態を表現する内容は多肢選択であり、重複している変数もあることから主成分分析をおこなった。主成分についてバリマックス回転後の各因子負荷量を示したものが表8である。因子の名前を第1因子は、「皆を守る木」「花や実がなる木」で「人の役に立つ」とした。第2因子は、「雨宿りできる木」「変らない木」「伸び伸び育つ木」で「自然に育つ」とした。但し「変わらない」という言葉のなかには心を投射した視点からみれば、不具合があるようにも見える。しかし、木というもの

表7 絵の選択別にみた育てたい木

(複数回答)

	桜の木	緑の木	ツリー	紅葉の木	びっしり	枯木	雨の木	全体 (%)
集まる木	18	16	12	5	9	4	4	68 (18.1)
憩いの木	20	16	10	11	1	3	3	64 (17.0)
皆を守る木	10	15	8	6	4	1	2	46 (12.2)
花や実がなる	18	5	3	3	6	3	2	40 (10.6)
耐える木	2	12	9	3	4	2	3	35 (9.3)
芯の強い木	4	8	6	6	4	2	4	34 (9.0)
伸び伸び育つ木	17	7	2	3	3	0	1	33 (8.8)
根を張る木	5	5	4	2	2	5	2	25 (6.7)
自分で育つ木	1	4	2	2	1	3	1	14 (3.7)
雨宿りできる木	1	7	1	2	1	2	0	14 (3.7)
変らない木	0	0	0	1	1	0	1	3 (0.9)
計	96	95	57	44	36	25	23	376
(%)	(25.5)	(25.3)	(15.2)	(11.7)	(9.6)	(6.6)	(6.1)	(100)

表8 育てたい木に関する主成分分析 (バリマックス回転後の因子負荷量)

	人の役に立つ	自然に育つ	今は我慢する	人間関係を大事にする	芯が強い
皆を守る木	0.639	-0.046	-0.330	0.359	0.040
花や実がなる木	0.128	-0.225	-0.473	-0.150	-0.434
雨宿りできる木	0.027	0.720	-0.009	-0.090	-0.038
余り変らない木	-0.072	0.599	-0.013	0.160	0.187
伸び伸び育つ木	-0.705	0.110	-0.172	0.062	-0.144
耐える木	0.141	-0.328	0.688	0.109	0.067
自分で育つ木	0.002	0.087	0.570	-0.080	-0.144
根を張る木	-0.581	0.123	0.298	0.319	-0.513
集まる木	-0.581	-0.433	-0.118	0.282	0.269
憩いの木	0.020	-0.150	-0.029	-0.903	0.026
芯の強い木	0.224	0.117	0.002	0.037	0.765

の本来の姿からすれば、これらの三つは矛盾しないと判断した。第3因子は「耐える木」「自分で育つ木」で「今は我慢する」とした。第4因子は、「根を張る木」「集まる木」で「人間関係を大事にする」とした。第5因子は、「芯の強い木」で「芯が強い」とし、将来を見据えた自己の姿は、5つに集約できた。

4. 現在の心情と将来像についての検討

(1) 学生の現在の心情

絵の選択の傾向からみると学部別では、すべて有意差がなかったことから、両学部学生の心情には差がみられなかった。しかし、調査は授業終了後に協力を得たが、選択科目と必修科目の違いから出席率に見合った回収率になっていたと思われる。

絵の選択別に関係をみると、色彩、形、雰囲気、季節感ともに有意差があり、全体的に「緑の木」「桜の木」が高い比率で選択されていた。

「緑の木」「桜の木」は円形で色の濃淡があるが、茂っており、木としては幹と葉のバランスがとれている。投映描画法の解釈によれば、「適度の描線と濃淡、あるいはそのいずれかをもって、色は指定された季節感をもっていること、ほとんどが茂みで覆われるか、茂みで埋まった輪郭をもっていることは最適な人間相互の関係があるという [10]。また、この両者は「緑の木」が開放感を表す緑が多く使われており [11]、桃色と黄色の混合である「桜の木」は、憧れとくつろぎの感を伝える。この両者はそれを満たす絵であることから、約半数の学生が対人関係はうまくいっているものと考えられる。事例1・2は予備調査2で書かれた自由記述である。

事例1 緑の木

絵があざやかで葉がよく繁っていたから。木の葉っぱと下にいる人の髪型が似ていた。

から。青々としてさわやかなイメージがあり元気のエネルギーが満ちているし、生命がみなぎっていると思えた。この絵をみていると癒されるし、まっすぐに伸びているなあと考えた。他の木よりも一番葉っぱが多くて、今から花や実をつけていく感じがしたから。それにどの木よりも一番目立っていて、すぐ目に留まったから。今の季節にあって木かなと思ったなど。

事例2 桜の木

色合いがきれいだから、回りにいる人が楽しそうだから。木の模様が面白かったから、木の色が自分の好きな色だったから。暖かい感じがするから、太くしっかりした木でのびのびした感じがする。2人が写真を撮っていて、真ん中にある木と雰囲気があってから好き。今の季節が春ということもあり、心の状態も春であると感じたので。この木は明るくて前向きにさせてくれそうな気がしたから。

選択率の低い木は「雨の木」7.0%、「枯木」6.6%である。枯木の幹に使われている「茶色は定着感と安全への欲求を表す」という[12]が、この絵は雨にうたれている木というイメージが強く、雨は冷たさや嫌なものが降りかかってくる感がある。「枯木」の幹は黒色であり、無や消滅感を伝えると考えられている[13]。投映法の解釈からすると、「葉のない一本線の枝は交流についての不適応感を示す」という[14]。同様に、裸の枝は他との交流がほとんどない不毛さを示すと考える。非常に少ない数ではあるが、この木が自分にぴったりと答えている学生は6.6%いるのである。しかし、この絵(事例3)について、予備調査2の自由記述で書かれたものをみると従来の絵の解釈では収まらない心情

が読み取れる。

事例3 雨の木

雨に打たれて木が折れているのに葉が生えているにもかかわらず、この木は生命力が強い。他の木より弱そうに見えるが自分にはこの木が一番強くたくましく見えた。今泣きそうだから。いろんなことを考えているから、友人が全然学校に来てくれなくて心配だから。悩みすぎて疲れたから。いろんな不安とか出てきて、大変な時期になっている。雨に打たれても(壁にぶちあたっても)、強く生きているのがいいなと思う。第一印象の雰囲気、この絵がよいと思った。雨が降っている感じや木の感じがとても印象的でひかれた。

「雨に打たれても(壁にぶちあたっても)、強く生きるのがいいなと思った」と記述しているものがいることは、孤独感はあるがそれは今だけで、跳ね除ける強さがあるという、若さを象徴したものであろう。

木の選択の中で、低いと予測していたのは「ツリー」、「びっしり」であった。低いと考えた理由は、調査時期と合わない「ツリー」で、幹は薄緑と茶色、紫色の木であり、実際にはありえない木であること、そして「びっしり」は四角の樹冠の中に昆虫が異常に大きく描かれていることから、気持ちが悪い、心の混沌としたものを感じると考えたからである。また、「紅葉の木」も、時期的な影響と、落ちるというイメージにつながるのではないかと考えていた。しかし、「ツリー」(15.8%)、「紅葉の木」(11.1%)、「びっしり」(9.3%)は中間に位置している。この3枚の絵はどれも想像力を掻き立ててくれる楽しさを表現している。特に「びっしり」の絵に楽しさを感じるものは、他の絵と

比較して最も多い。しかも一つの絵からストーリーを生み出している。つまり、学生の感性は豊かであり想像する力の存在を感じる。想像は創造につながる一つの道筋である [15] ことから、学生の創造的心情が感じられる。

次の事例4・5・6は予備調査2で自由記述されたものである。

事例4 ツリーの木

冬っぽさがよかったから。どんな苦難があっても今は耐え忍ぶべきだと思い、自分に似ている。季節だと自分に似ている。

事例5 紅葉の木

何か新しいことがたくさんあり過ぎて戸惑っている気持ち。古いことはすべて散っていった。少しさみしい。色合い的に秋を感じてよかったから。

事例6 びっしり

いろいろな虫がいて、ごちゃごちゃして、今の自分の頭の中や心が似ているから選んだ。ひとつのものに絞りこむのではなく、多くの方面に向かっていることが自分みたいな感じがしたから。木にたくさんの虫が付いていて楽しそうだったから。

選択したものが最も少なかった「枯木」(事例7)については予備調査2において次のような自由記述が見られた。

事例7 枯木

色合いが落ち着いているから、寂しい木の近くを明るい感じのおじいさんが歩いているのがすごく気になったから。枯れているような感じで、自分になっているから、今はまだ葉もついていないが、春に向けて力を

蓄えている感じがしたからなど。

自由記述では、明らかに樹木のイメージに自分の姿を投射している。自分と似ているという言葉が書かれているのもこの「枯木」が最も多い。心情を表現している中で、さびしい・辛い気持ちの時には、何かを訴えたいということであり、臨床心理では常套の表現方法である。「枯木」の幹は黒色である。子どもたちが描いた絵について、ある一定期間に徹底して黒を使った子どもたちは、感情的行動が欠けていたという。彼らは、本質的に緊張しており不安で孤独な部類のものであったという報告もある [16]。10年前の阪神大震災の後に、黒い太陽を描き続けた子どもの話は記憶に深く残っている。黒の持つイメージと葉のない枝を選んだ学生については、卒業時のデータに注目したい。

(2) 学生の心の安定度

大学に入って心の安定度はどのようなだろうか。学生が選択した木の色のイメージについて、他の視点から分類を試みた。まず、色の違いから見た結果を表9に示すと、好き・嫌いを暖色系・寒色系でみた場合、色のイメージは寒色系が全体で60%を占め、暖色系の1.5倍になる。投映描画法の解釈によれば、青色については、静けさ、平和、平安感を引き出し、空や海の連想が解釈に加わる。青色はまた、満足感を引き起こす。表層的なものよりもむしろ深層の感じを伝える。もし青色が広範囲に、もしくは不適切に使われたなら、穏やかで平和で静かな整然とした環境への過大な欲求に関係しているかもしれない。それはまた、傷つきやすい傾向を反映するという [17]。寒色系が多い本学の学生は、青年期の傷つきやすい傾向を現わしているのだろうか。日ごろ感じる学生の繊細さにリンクするデータである。

表9 色の違いによる学生の好み (%)

	暖色系	寒色系	計
好き	53 (39.6)	81 (60.4)	134 (100)
ふつう	21 (30.4)	48 (69.6)	69 (100)
嫌い	2 (20.0)	8 (80.0)	10 (100)

表10 形の違いによる学生の好み (%)

	丸型	三角型	四角型	計
安定 (強そう)	75 (62.0)	29 (24.0)	17 (14.0)	121 (100)
しなやか	31 (50.0)	9 (40.3)	6 (9.7)	62 (100)
不安定 (弱そう)	14 (46.7)	3 (10.0)	13 (43.3)	30 (100)

「暖色を好む子は、たいてい自由な感情的行動や、暖かい愛情のこもった関係、この年頃（幼児期）の子どもたちによくありがちな自己中心的な方向性を示す傾向があったという。また、寒色を好む子どもはひとつの集団としてみると、きわめて統制された過剰適応的な行動が目立ち、批判的かつ独断的で、他人に対して感情を表さない傾向があった」という [18]。これは幼児期の子どもについて観察されたものであるので、大人にあてはまらないという論議もあるが、成長すると実際に存在する色に左右されるので、潜在的にはむしろ、子ども期の色の好

みが、心情には適応できるのではないかとと思われる。

また、形の違いを見たものを表10に示しているが、安定・不安定を角型でみた場合、形の印象は、全体で丸型の50～60%が安定・しなやかに感じている。これを丸型・角型に分けて図示すると図2-1・図2-2のようになる。どちらの絵を選んだとしても、学生は自分の選んだ図形に対して、安定：しなやか：不安定のイメージを丸型：角型ともに同率で選んでいる。

「直線で描くことが観察された子どもたちは、比較的独創的・外交的態度を示し、遊びにおい

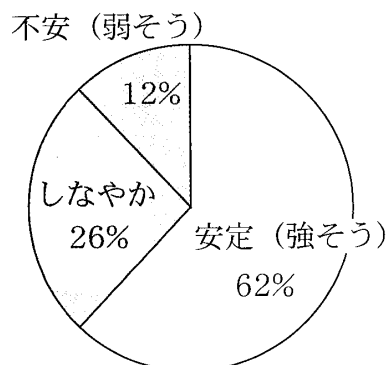


図2-1 丸型のイメージ

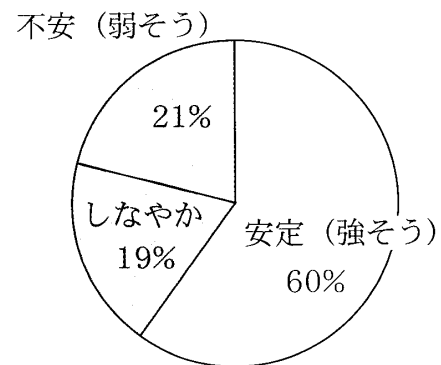


図2-2 角形のイメージ

て率先的・攻撃的および反抗的という特徴があった。これと対照的に曲線・連続した優しい線を用いた子どもたちは、より依存的、より従順的、より感情的に調和した反応、すなわち、優しい、自信に欠ける、大人の注意を求める、気まぐれ作業の習慣および空想という特徴が目立った」という [19]。この解釈も色と同じように、潜在的な心情の表れとして学生が選んだと考えると、どちらの形を選んだとしても、それなりに心のよりどころはしかりしていると思われる。つまり、自分の選んだものはプラスイメージを持って生きている姿ではないかと思われる。彼らは、自分が在学している大学を選択した時点の状況から不安や悩みを乗り越え、一歩前に進み、現在の大学で意味を見出そうとしているように筆者らは考える。

(3) 心情からみた4つのタイプ

心情を表現する項目を因子分析した結果、4つの因子が抽出された。それらは「大学生活不安タイプ」「大学に期待するタイプ」「将来を決めかねるが安定タイプ」「忍耐しつつも待つタイプ」である。最も多い34%の「忍耐しつつも待つタイプ」は、現状には十分満足していなくても、我慢して待ち、何時か何か起きる予感の中で、心は一応穏やかに癒されているのであろう。大学に期待するタイプも28%おり、学生生活に満足していることを示している。「大学生活不安タイプ」の学生は約2割おり、時間的な経過とともに変化する、あるいは学年が進むにつれて変化することを信じているタイプである。「大学生活不安タイプ」と「将来を決めかねるが安定タイプ」は19%である。

小塩他 [20] によると「大学退学者の入学時における悩みの特徴」では、退学した学生は、入学直後に志望学部・学科の悩みや、生き方の悩みを訴える傾向にある」ことを、大学入学時

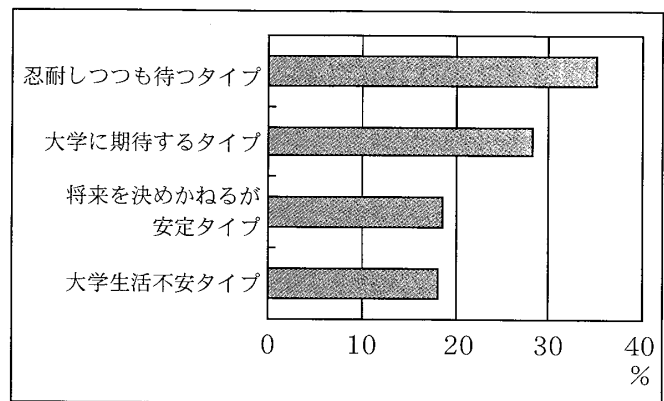


図3 学生の心情

に実施したUPI (University Personality Inventory) テストで報告しているように、入学時の心情に配慮すべきであろう。

さらに「将来を決めかねるが安定しているタイプ」が心配な学生ではないかと思われる。なぜなら、将来の目標が見えないことで、具体的な学習に取り組めていないことが予測されるし、そのことに不安がないということは、次へのチャレンジをしようとする可能性も少ないと思われるからである。

また、塗師他の「UPIによる休学・退学者の心理的傾向」では、「UPI得点は1997年に比して2000年と低くなっていく傾向にあるという。その解釈に「自己の精神的内面の動きを把握できず、深く悩まない学生が休学・退学しやすい」という [21]。深く悩まないということと、「将来を決めかねているが安定している」こととは表現のうえでの違いがみられているが、満足して毎日を何となく過ごしているという点で似ている。

今回の調査で配慮すべき学生は、暗いイメージの「枯木」や「雨の木」を選んだ学生であると考えていたが、「雨の木」は芯がしっかりしていてやがては育っていくと思われるので、それなりの考えを持っていることから、十分学習に耐えうると判断していいのではないかと考える。

(4) 自己の将来像

どのような木に育てたいのか、という問いに対する因子分析では5つの因子が抽出された。それらは「人の役に立つ」「自然に育つ」「今は我慢する」「人間関係を大事にする」「芯が強い」である。これらの因子に属する割合を見たものが図4であるが、最も多いのが「人間関係を大事にする」である。これは、内閣府が出した2004年の調査の第1位が「友達と友情を育む」[22]と同じ結果であり、同年代の若者と何ら違いはない。

次に多いのは「人の役に立つ」と続き、本学の建学の精神「真に信頼して仕事を任せられる人間の育成」とマッチする考え方である。すなわち、皆を守り、花や実のなる木を夢見ており、積極的に生きたい姿勢を表していることに注目したい。そして、「自然に育つ」の中には、樹木はある程度成長することがあたり前と考える心情が含まれていることから、大学として木々を揺さぶる方略が必要であると考ええる。

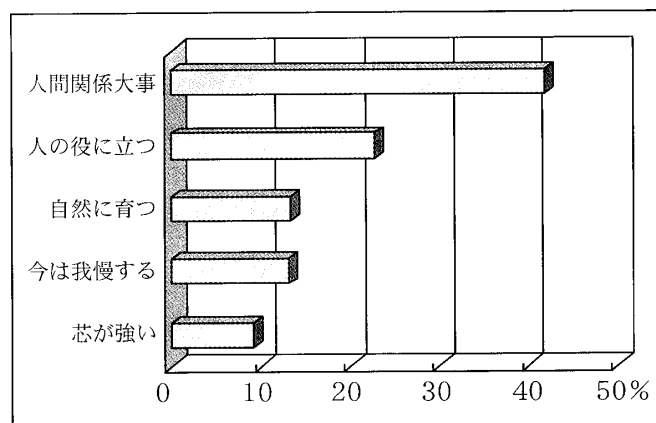


図4 自己の将来像

さらに、「今は我慢する」は、「風雨に打たれても根を張って、筋の通った芯の強い木になる」と述べているように、今は耐えるけれども自力で育っていくから見守ってほしいという不屈の精神を秘めている。最後に「芯が強い」については、しなやかな自分を投射していると思われる。

ここで育てたい木について自由記述で書かれたものを表11に記しておく。

表11 どんな木に育てたいか

桜の木	絵に描いてある2人の他にも、友達・家族がいっぱい集まるような温かみがある木。もっと太くしっかりした木で、この木を見て笑顔になるような木。サクラのような木ですが、花びらが散らないような、万能な木に育てたい。そして、もっと大きく枝を伸ばして木陰をつくれるくらいの大きさとなり、皆の憩いの場となるような、人の役に立つ木に育てあげたい。もっと大きくなって、その木を見ただけで、その人が明るく、心が大きくなれる木になりたい。
緑の木	緑が多く葉がたくさん覆い繁っていて、花が咲いていないので、花や実をたくさん咲かせて、もっと大きな木に成長させて、いつまでも目印になるような、堂々としている木に育てたい。みんなから愛されるような木に育てたいと思う。風が吹いても雨が降っても散らないような木にしたい。人がいっぱい集まるような木にしたい。今の状態でも大きくなっているが、これからまだまだたくさん葉をつけ、もっと大きな木になり、日陰をつくって、人が休めるような木になる。
ツリー	もっと大きくなってほしい。雪が降っても、根強く生きて生きたい。将来的に変わらない。

びっしり	一つの木に沢山の種類の動物がくっついていて、色鮮やかで、多数のものを呼ぶことができる大きな木になりたい。スッキリした木になりたい。虫がもっとよってきて枯れる。
紅葉の木	すべて枯れてしまっている感じがするから、また、一からの気持ちでしっかりと面倒を見て、大事に育てる。この木は、どんどん散っていくと思ったし、淋しい感じになっていくと思う。散っていくけれど、また次の季節に向けてだんだんと強くなると思う。
雨の木	この木は強いと思うから、見守るだけでいいと思う。そして、この木が大きく実をつけるのを見てみたい。それは晴れの日、葉っぱが太陽に照らされて、伸び伸び育っている木にしたい。明るい感じの、キラキラしていて、輝きがある木に。 悩みなく、ずっと幸せに笑っていたいと思う。ビシーと強い木になる。雨風に打たれて、風に吹かれて、それでもしっかりと地に根をはっている、筋の通った、芯の強い木になると思う。
枯木	暗い雰囲気かプンプンしているので、明るく、葉が茂った木にしたい。木の枝にしなやかさがあって、幹がしっかりして葉があつたり花があつたりしたい。緑のきれいな葉が一杯の明るく天気で、いつまでも枯れない丈夫な木。冬を越えたら緑一杯になる。

Ⅲ まとめ

樹木画のイメージから学生の心を探る試みを以下のようにまとめることができる。

- ①樹木画が心情を適切に表すことができるかどうかについては、予想以上に自分の心情を表すことができていた。また、筆者らが用意した絵でも十分それが可能であった。
- ②選択肢の多い学部、進路がある程度決まっている学部ともに、入学当時の心情に差は見られなかった。これは、進路を決定するまでに時間的余裕があることで、はっきりした目標をもつ必要にかられていないということ、多くの選択肢があるという希望は安定的な心情をもたらしていることがあげられる。
- ③絵の選択は、希望や安定を示す「桜の木」「緑の木」が多く、また、「雨の木」「枯木」

を選択する学生は少なかった。しかし、「雨の木に」については、雨にも負けない芯の通った木になるという見方をするものもいた。

- ④学生の現在の心情は、「大学生活不安タイプ」「大学に期待するタイプ」「将来を決めかねるが安定したタイプ」「忍耐しつつも待つタイプ」の4つにまとめることができた。このうち「将来を決めかねるが安定したタイプ」「大学生活不安タイプ」は支援をしていく必要があるタイプであり、「大学に期待するタイプ」「忍耐しつつも待つタイプ」は見守っていくのが良いのではないかと思えるタイプである。
- ⑤育てたい木は「人間関係を大事にする」「人の役に立つ」「自然に育つ」「今は我慢する」「芯が強い」の5つの因子が抽出さ

れた。「自然に育つ」の中にも「雨宿りができる」「伸び伸び育つ」という項目もあり、伸びる木自体の変化を、自然に育つと考えていると読み取れることから、ほとんどが現状より、より高位に自分の気持ちをおいていたと考えられる。現状がどのような状況であるにせよ、彼らは大学の中で自分を伸ばしていくことを前提にしている。リンデマンはその著『成人教育の意味』の中で教育がどのような助けとなり、促進剤になるのか、どのような種類の学習が、今度はより高次の適応につながっていくような適応へと向かうのか、あるいは、われわれの教育の構想が、成長的パーソナリティという発展的概念と結びつくものなのかを問っている [23]。

以上、仮説の4つは証明されたが、証明されなかった仮説では、創造性を示唆する結果をみることができた。創造性を刺激する教育方法についても検討し、取り入れていくことが必要かと思われる。

おわりに

今回の調査において4つのタイプの学生がおり、将来の夢を5つにまとめることができた。それは図5 学生の心情樹の模式図に示したとおりである。根から伸びる幹は大学がもつ使命をフルに発揮できる場所である。枝葉を伸ばした先に学生の夢がある。今は心配な二つの根も含みながら、幹で他の刺激を互いに受けながら5つの夢に向かって、大学という一本の大きな木を作っているのが現状である。

近年、大学全入時代に入って、必ずしも意欲に燃えた者が入学してくるとは限らない現状において、退学者が多くなってきている。各大学からは多くの事例も報告されているが、木ノ瀬他によれば、「退学者における入学時のUPIの特

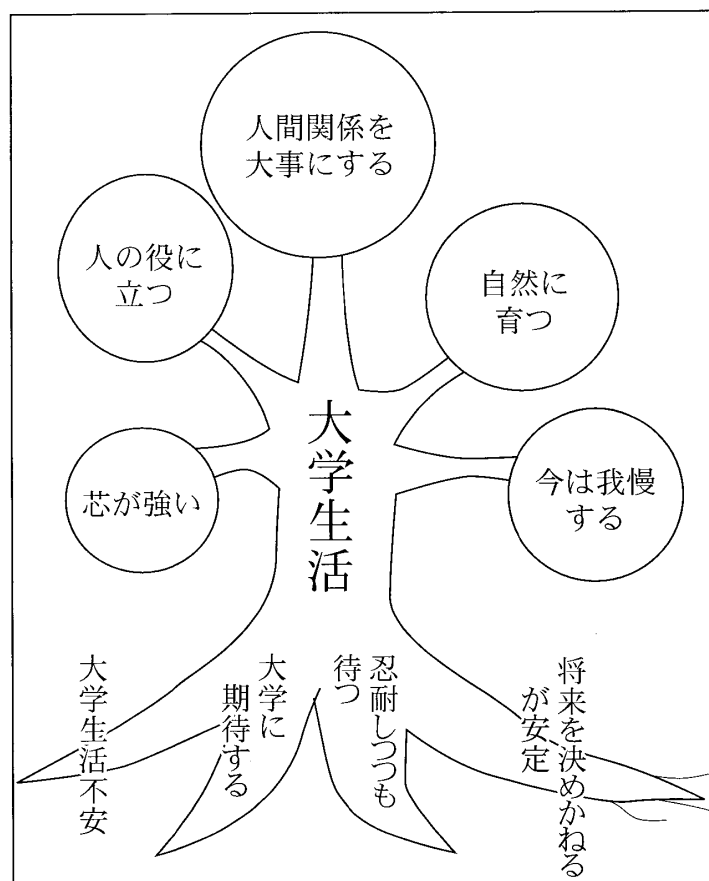


図5 学生の心情樹の模式図

徴」のなかで、「退学者の割合では、2年次退学者がもっとも多く、ほとんどの学生が1年次と2年次までに退学しているし、さまざまな精神的・身体的自覚症状を有していた。その特徴は1年次に退学者が顕著であり、入学当初より深刻な問題を抱えていた」という [24]。

今回の調査で見ると、刺激として提示されたマイナスイメージのものについても、伸びる可能性を持った回答がされたことは希望につながる。このマイナスイメージの学生も含んでの大きな木の育ちを考えていくことが、これからは必要かと思われる。本校にも退学者がおり、それをあたり前の現象として受けとめるのか、最善を尽くす手立てを模索するのか、本大学の方向性を決める指標となるであろう。以上から模式図にあるように大学という大きな木の中で、互いに影響しあいながら、自分探しをしてほしいものである。

引用・参考文献

- [1] マーヴィン・レボヴィッツ、菊池道子・溝口純二訳『投映描画法の解釈』誠心書房、2002年、p.1.
- [2] グレッグ・M・ファース、角野善宏・老松克博訳『絵が語る秘密』日本評論社、2001年、p.4.
- [3] アルシューラ、R.H. & ハトウィック、La B.W、島崎清海訳『子どもの絵と性格』文化書房博文社、2002年、p.41.
- [4] 村山久美子『心を描く心理学』ブレーン出版、1999年、p.105.
- [5] 中園正身「樹木画の解釈論についてー樹木心理学の立場からー」『人間科学研究』文教大学人間科学部、第22号、2000年、pp.1-12.
- [6] 神田久男『イメージとアート表現による自己探求』ブレーン社、2007年、pp.86-87.
- [7] 前掲書 [4] pp.74-75.
- [8] tupera tupera『木がずらり』、ピエ・ブックス、2005年.
- [9] 内閣府『世界の青年との比較からみた日本の青年』ー第7回世界青年意識調査報告書一、「学校関係」国立印刷局、2004年、pp.23-29.
- [10] 前掲書 [1] pp.63-64.
- [11] 前掲書 [1] p.32.
- [12] 前掲書 [1] p.33.
- [13] 前掲書 [1] p.34.
- [14] 前掲書 [1] p.60.
- [15] ジュラルディン・B. シックス、岡田陽・高橋孝一訳『子供のための創造教育』埼玉大学出版部、1973年、p.70.
- [16] 前掲書 [3] pp.79-80.
- [17] 前掲書 [1] p.32.
- [18] 前掲書 [1] p.32.
- [19] 前掲書 [3] p.109.
- [20] 小塩真司・願興寺礼子・桐山雅子「大学退学者の入学時における悩みの特徴」日本教育心理学総会発表論文集、No.49、2007年、p.293.
- [21] 塗師恵子・富山博・佐藤聡「UPIによる休学・退学者の心理的傾向」北海道自動車短期大学研究紀要、No.28、2003年、pp.61-63.
- [22] 前掲書 [9] pp.23-29.
- [23] エデュアード・リンデマン、堀薫夫訳『成人教育の意味』学文社、1996年、p.86.
- [24] 木ノ瀬朋子他「退学者における入学時UPIの特徴」明海大学教養論文集：自然と文化、No.19、2007年、pp.12-17.
- [25] 三沢直子『描画テストに表れた子どもの心の危機』誠心書房、2002年.
- [26] J.H.デイ・レオ、白川佳代子訳『子どもの絵を読む』誠心書房、2002年.
- [27] Koch, K.林勝造他訳『バウムテスト』日本文化科学者、1970年.
- [28] 西平直『エリクソンの人間学』東京大学出版会、1994年.
- [29] 神谷美恵子『人間をみつめて』みすず書房、2004年.
- [30] 服部祥子『生涯人間発達論』医学書院、2006年.